



職員定期表彰

計画部	〇二級	精勤章	基	技	技	技	技	技
西山	片岡	大川	馬門	梶原	福元			
扶美	孝幸	耕一	辰美	哲也	忍			
	安芸署	高知中部署		四万十署	愛媛署			
技	事	事	基	基	事	技		
齋藤	山本	濱口	萩野	小松	吉田	山崎		
充治	和也	修次	伸二	浩	由美	賀文		



ノコギリ (平田小学校)

は、戦後植えられた人工林が、手入れ不足のため下草が生えなくなった。土砂崩れが起こったりして動物が住みにくくなつた山を、子グマと森の動物たちが自分たちで手入れをし、やがて人間も加わり美しい森に

五月二四日と六月一四日の両日、高知県宿毛市立山奈小学校と平田小学

の学習をしました。紙芝居の内容は、戦後植えられた人工林が、手入れ不足のため下草が生えなくなった。土砂崩れが起こったりして動物が住みにくくなつた山を、子グマと森の動物たちが自分たちで手入れをし、やがて人間も加わり美しい森に

再生させるといいうもので、森林の持つ機能や現在の森林・林業が抱える問題をわかりやすく学習できます。児童は、紙芝居にじっと見入り、森林や林業について理解を深めてくれたようです。木工クラフトは、ヤマザクラなどの枝の輪切りを貼りあわせて作る「クマのストラップ」と木の枝で作った鉛筆に顔を模した「モツケン」を作りました。木工ボンドで貼りあわせたり、ポスカで着色したりする簡単な作業ですが、それぞれに趣向を凝らした作品を仕上げ、互いに見せ合っていました。

木工クラフト
〈ふれあいセンター〉

校の一・二年の児童が木工クラフトの製作を行いました。

校の一・二年の児童が木工クラフトの製作を行いました。

各地のたより





森林の学習

〈ふれあいセンター〉

愛媛県松野町立松野西小学校の四年生は、毎年度「総合的な学習の時間」を利用して森林や樹木の学習をしています。

今年度も六月一日、六日、二〇日に「校庭の樹木」「空飛ぶ種子」「木工クラフト」を行いました。

この木なんの木

「木工クラフト」では、育林作業で伐採した木の枝を使ってストラップやカブトムシなど思い思いの作品を作りました。あまり使う機会

り、色紙やスチレンペーパーで種子の模型を作って飛ばしたりしました。

「校庭の樹木」では、普段はあまり気にしない樹木の葉や花、実を見たり触ったりして名前や特徴を学習し、後日、自分たちで作った樹木名板を取り付けました。

「空飛ぶ種子」では、樹木や草花が様々な方法で種子を散布することを学習

し、実際にマツやカエデの種子が風を受けてくるくる回って飛ぶ様子を観察した

のないノコギリやクラフトナイフに四苦八苦しなうらも、お気に入りの一品を作り上げました。

二期期には「八面山登山」「森林の土壌と生物」「炭」について学習する予定です。

さまざまな学習を通して森林や自然、林業などについての興味や理解の深まりを期待しています。

松野東小学校で

森林教室

〈ふれあいセンター〉

六月二六日、愛媛県北宇和郡松野町立松野東小学校の五、六年生一七名を対象に、「土壌に住む生物」と「炭素現存量」について森林教室を開催しました。



樹木の働き（葉っぱと太陽に扮した児童）

するとともに、土に返らないプラスチック類を放置することは環境破壊につながることを学んでくれたようでした。

そして、実際に「土壌に住む生物」を捕まえての観察では、「気持悪

まず、「土壌に住む生物」では、一ヶ月前に埋めておいた「野菜」「枯葉」「ペットボトル」がどのように変化したかを観察しました。児童が注目する中、埋設箇所を掘り返すと「野菜」は跡形もなくなるほど分解されていたのに対し、「枯葉」は分解中、「ペットボトル」は全く変化していないことに驚いた様子で、「土壌に住む生物」の働きに感心

い！」と言いつつも初めて見る生物の名前を一生懸命図鑑で調べていました。

また、樹木が二酸化炭素を貯蔵するしくみの学習では、二酸化炭素が木に貯えられることを葉っぱと太陽に扮した児童に模型を使って実演してもらいました。

その後、校庭の木を測竿や直径巻尺を使って測樹し、二酸化炭素の貯蔵量を計算しました。

目に見えない二酸化炭素の話や、難しい計算には戸惑っていました。自動車の使用や家庭のエネルギーの使用で発生する二酸化炭素の吸収には、たくさんの樹木が必要なことを学び、環境に対する森林の役割や大切さを実感してもらえたようです。

※測竿

(木の高さを測る器具)

津波からの

避難訓練を実施

〈徳島森林管理署〉

六月一八日、当署では全週間準備月間の活動の環境として、津波からの避難訓練を行いました。

近い将来、発生することが予想されている東南海地

震は、海溝型の地震であるため、地震に伴って巨大な津波が発生することが危惧されています。当署が位置する徳島市川内町には、地震発生後三〇分程度で約五mの高さの津波が到達すると予想されており、海岸や吉野川の堤防を乗り越え、事務所の一階部分は水没する可能性があります。

川内町内には津波から避難できる高台はありませんが、幸い今年四月に徳島東



阿波しらさぎ大橋へ避難

環状道路の「阿波しらさぎ大橋」が完成し、その路面は海拔一四mあるため、ここを避難場所としました。駐車場に整列し、点呼を終えた職員は、早足でしらさぎ大橋を目指し、約一〇分で全員が避難することができました。また、避難場所から衛星携帯電話を用いて、非常通信訓練を行いました。

これに加えて、避難場所まで逃げられない場合や、逃げ遅れた場合を想定して、事務所の裏に建っている公務員宿舎（四階建て）の屋上に避難する訓練も行いました。昨年度末、屋上点検用ハッチから安全に屋上に出ることができるよう、避難用はしごを設置しておりますが、本番さながらにはしごを引き下

ろして、屋上に登る体験をしました。

当署では、いち早く、「徳島森林管理署巨大地震対策」や「地震対策マニュアル」を策定していますが、こうした避難訓練などを行うことによって、巨大地震や大津波から我が身を守る、仲間の生命を守るという取組みを続けていくこととしています。

国有林に

表示板等を設置

〈徳島森林管理署〉

七月七日、南つるぎ地域活性化協議会が主催する第一回「おひさんプロジェクト」が実施されました。

南つるぎ地域活性化協議会は、剣山南側の魅力発信

に取り組むため、当署もメンバーとして昨年設立した組織で、登山道の整備などを「おひさんプロジェクト」として、昨年度は四回実施しています。

今回は、昨年度中に当署で作成していた表示板と里程標二枚を、鎗戸国有林一三四林班に設置しました。表示板は、九〇cm×六〇cmの防腐ヒノキ製で、剣山周辺の国有林の地図と、周辺が国有林であること、植物の採取禁止、安全



設置した表示板の前で

登山の注意を表示してあります。また、里程標も木製で、「ホラ貝の滝」までの距離が二、六kmあるため、その中間地点及び県有林との境界付近に設置しました。

当日は、朝まで激しい雷雨があり、実施が危ぶまれましたが、当署から署長、

業務課長、森林官が参加し、県南部県民局やNPO剣山クラブの方々など、一六名で作業に当たりました。剣山スーパ―林道沿いの登山口から、表示板等を交代しながら担ぎ上げ、手分けして登山道沿いに表示板等を設置しました。

また、当日は南つるぎ地域活性化協議会の活動取材するため、徳島新聞の記者も現地を訪れました。

近年、中高年を主体に登

山者が増加しており、当署でも登山者の安全確保のために登山道の整備等に努めているところですが、今後ともこのような取り組みにも積極的に参画し、「国民の森林」としての国有林のPRに努めていきたいと考えています。

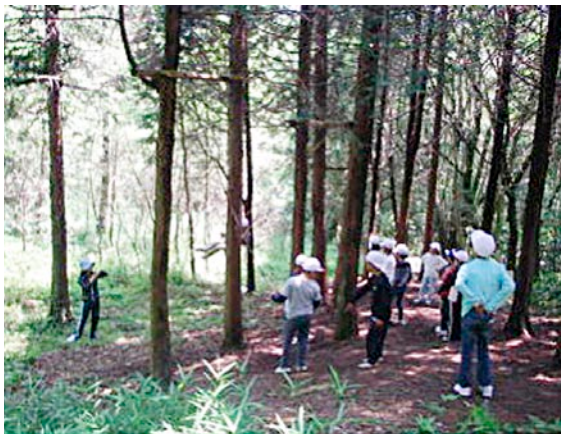
「遊々の森」で森林教室 〈香川森林管理事務所〉

六月一日、香川県高松市屋島国有林の「遊々の森」において、屋島東小学校三年生児童二四名、四年生児童二二名（計四六名）を対象とした森林教室を実施しました。

今回は、三年生には下草刈り、遊具遊び、樹木観察

を、四年生には下草刈り、遊具遊び、ペットボトル実験を学習・体験してもらいました。

三年生の樹木観察では、樹木を区分するために、①針葉樹と広葉樹、②低木と高木、③常緑樹と落葉樹を学習した後に、遊々の森に生育しているヒノキ・アラカシ・ヒサカキ・ヤマハゼ等がどれに分類されるかについて学習しました。児童



ブランコで遊ぶ様子

たちは、樹木の写真と木を見比べながら、「これは落葉樹だね？」などと友達同士で話し合いながら、木の種類や違いについて学びました。

四年生のペットボトル実験では、遊々の森の土と運動場の土の水の浸透具合の比較実験を行いました。運動場の土が余り水を通さないのに対して、遊々の森の土がゆっくりと通す様子に

児童たちは、「なんで運動場の土は水を通さんの？」「森の土は水がよく浸み込むね！」と驚いていましたが、森の土の働きを説明すると納得した様子でした。

また、先輩たちが植えたクヌギ林

での下草刈りは、藪に入りたり鎌を使うのが初体験の児童もいて、最初はおそろおそろ行っていました。最後にはきれいに下草を刈ることができました。

最後に、遊々の森に設置しているブランコやハンモックなどの遊具で遊びました。学校のブランコと違い、自然の中での手作りブランコということで、児童たちは森の風を感じながら元氣いっぱい遊んでいました。

今回の森林教室は、三年生は初めてで、四年生は昨年に行っていたの実施となりましたが、この遊々の森での体験を機に、児童たちが森林について自分の考えや気持ちを表現できるひとつのきっかけになればと考えています。